

チームの魅力や雰囲気がチームの成績に及ぼす影響について

The effect that charm and atmosphere of team exert on result

1 K03B138-8 中島 敬介

指導教員 主査 原田宗彦先生 副査 矢島忠明先生

【諸言】

バレーボールは、推計国内競技人口は 289 万人と、野球・ソフトボールにつぐ、団体球技では第 3 位の非常に人気のあるスポーツである(2002)。その中でも「生涯スポーツ」として、地域社会に根付き、以前から最も広く愛され、親しまれているのが「ママさんバレー」である。ママさんバレーは、女子のスポーツとして大衆スポーツに位置づけられ、活発な活動、幅広い年齢層に愛されている。家庭婦人が家庭人としての生き方にとどまらず、仲間と交流しコミュニケーションを保ちながらバレーボールをすることによって、気分転換や気晴らしをすることができ、日常生活に新たな活力を生み出す原動力になっている。

そこでチームの雰囲気がチームの成績に与える影響を本研究のテーマとした。スポーツには同じ種目でも、競技力向上を求めている勝利至上主義スポーツと、楽しむためのレクリエーションスポーツに大きく分けて考えられる。レクリエーションスポーツは幅広い年齢層で楽しめる。しかし、勝つためにやるスポーツは楽しくないのだろうか。試合に勝てば嬉しいし、楽しい。楽しいからこそ苦しい練習にも耐えられるのではないか。強いだけが良いチームではないが、強ければ楽しいものでもない。また、ただ強いからといって、優勝した時に何か残るものがあるのだろうか。私が考える良いチームとは強くて、尚且つチームの雰囲気や魅力が良いチームである。よって本研究の目的は、チームの魅力や雰囲気がチームの成績にどのような影響を及ぼすかを分析することとした。

【調査方法】

2006 年 11 月 26 日、12 月 3 日に行なわれた、第 73 回文京区(東京都)家庭婦人バレーボール大会の前に試合参加チームに調査を行なった。

- (1)調査日 : 2006 年 11 月 11 日(土)
- (2)調査方法 : 郵送法を用いて質問紙を配布した。
- (4)調査対象 : 文京区家庭婦人バレーボール連盟登録 20 団体 26 チーム、選手 415 名(1 部 12 チーム、2 部 14 チーム)

調査内容は大きく分けて 3 つ、5 項目に分かれる。

①チームの魅力(集団魅力からみた運動部の凝集性尺度)について、(1)順位(単回帰分析)、(2)1 部 2 部間の比較(t

検定)

②チームの雰囲気(社会的アイデンティティ尺度)について、(3)順位(単回帰分析)、(4)1 部 2 部間(t 検定)の比較
③チームの勝つ意識、楽しむ意識を尺度に Performance Maintenance(以下「PM 理論」と表記する)理論を用いて、
①PM: 強く、楽しく②Pm: 強く、楽しさを求めない③pM: 楽しく、強さを求めない④pm: 強さも楽しさも求めない
という、4 つのグループに分類し、(5)順位の平均点とそれぞれ比較(1 元配置の分散分析と多重比較)

【結果・考察】

- (1)チームの魅力とチームの順位における関係に 10% 水準で有意な傾向があることがわかった。順位が高ければ高いほど、魅力も高くなると予測が出来る。
- (2)チームの魅力と 1 部と 2 部の間に 5%水準で有意の差があることがわかった。1 部は 2 部より競技力が高く、魅力も高いといえる。
- (3)チームの雰囲気とチームの順位における関係に、5% 水準で有意な関係があることがわかった。順位が高ければ高いほど、雰囲気も良いといえる。
- (4)チームの雰囲気と 1 部と 2 部の間に、Q7「やさしい一つめたい」以外の項目には、1%水準で有意の差があることが分かった。Q7 以外で 1 部は 2 部より競技力が高く、雰囲気も良いといえる。
- (5)全ての組み合わせの中で、pM と pm の関係以外に有意な差があることがわかった。①PM>②Pm>③pM、①PM>②Pm>④pm という差の関係のあることが明らかになった。勝つこと、楽しむことの両者が高ければ、順位も高くなるといえる。

【まとめ】

分析結果より、チームの魅力や雰囲気がチームの成績に影響することがわかった。チームが強くなれば強くなるほど、チーム内の魅力や雰囲気も良くなる。また、1 部リーグ、2 部リーグの間にも同じことがいえる。よって、良いチームとは、競技力が高く、尚且つチーム内の魅力や雰囲気が良いチームであると考えられる。本研究をもとに良いチームを多く作り、一人でも多くの人にスポーツを愛してもらいたい。